

基本計画の枠組み（案）

1 はじめに（市長あいさつ）

2 文化芸術振興の考え方と施設の有効利活用方法について

（1）養父市における文芸施策のあり方（事務局が案作成）

社会的背景

養父市総合計画における位置付け

（2）文化芸術振興施策について

- ① 地方では文化芸術に係る興行の数も場も少なく、都市部と比較した時に地域格差が生じることは否定できません。民間事業者にとって採算がとりにくい過疎地域にあっては、行政が質の高い芸術文化へのアクセスを確保する必要があります。
- ② 教育政策、文化政策が充実していないまちには人は来ません。どちらも時間がかかるものですが、将来のための土壌を作っていかなければなりません。
- ③ 様々な文化芸術に触れられる機会を提供しつつ、もっとやってみたいと思った人が次にステップアップしていけるような道筋を整えることも必要です。特に子どもたちには戦略的なプログラムが重要となってきます。
- ④ 今いる人だけでなく、次世代への刺激につなげていければ将来養父市から素晴らしい演奏家が育つこともあるかもしれません。これは時間がかかるものではありませんが、時間がかかるからこそ行政が取り組んでいく必要性は高いと言えます。
- ⑤ 養父市ではこれまで、ビバホールチェロコンクール、木彫フォークアート、子ども歌舞伎などを始めとした文化施策に取り組んできましたが、文化芸術に対する優先順位はそれほど高くなかったというのが実情です。
- ⑥ 今後は、何かに優先するというよりも、福祉や教育、産業振興等行政が実施する様々な分野や、地域の歴史や伝統などを文化芸術と掛け合わせながら、新たな価値を生み出し、日々の生活の中に文化芸術が溶け込んでいるような暮らしを浸透させたいと考えます。

（3）施設の効果的な利活用について（愛される施設）

- ① 建物や設備が新しくなっても、使われない施設に価値はありません。いろいろな人に、いろいろな使い方を使い倒してもらってこそその施設です。
- ② この新しい施設は、近代建築、木造和風建築、ホール、最新の音響機器、図書館、調理室

等の公民館機能、広大なオープンスペースなど全国で見ても特異な複合公共施設です。

- ③ 文化芸術を介して、また多様な活動により人々が集い、学び触れ合うことによりさらに多様な交流を生み出し人と人をつないでいく拠点として建設されたものです。
- ④ 一部の機能だけをみて何をしようか考えるのではなく、居心地のいい空間にしていかなければなりません。居心地のいい空間とすることでおのずと人が集まり、にぎわいが生まれ、そしてイベント等が行われるようになる、そんな施設を目指します。
- ⑤ 365日いつも何かしているような、あそこに行けば何かやっていると言われるような施設
- ⑥ 誰にどのように使ってもらうか。学習、趣味など様々な目的で、小さなお子さんから高齢者までの様々な年齢層の方々が、自分の居場所の一つとして利用してもらう。
- ⑦ 例えば図書館でのピアノなどの演奏会などこれまでの使い方ではない形で使いたいという利用者のイメージがあるなら、実現に向けて一緒に考えていきます。
- ⑧ 市内高校と駅の間であり、市外の高校に通う養父市の子、また市内の高校に通う市外の子らが利用し、家庭や学校以外の居場所の一つとして、自由に勉強や交流等ができるような、たまり場となる施設にするためにWi-Fiやコンセントなどの環境を作ります。
- ⑨ 死角が少ない場所は犯罪率が下がります。みんなのたまり場となることで、死角を減らし、小さなお子子どもたちも安心して遊べるような安全な空間につなげていきます。
- ⑩ 飲食についても、常設以外でも移動販売（キッチンカー）など様々な形態での提供も可能であり柔軟な対応方針が望ましいといえます。

3 文化芸術施策の推進体制について

- ① 運営体制は市直営とします。
- ② 市民と一緒にになって新しい事業を創造していきます。
- ③ 芸術文化施策には長期的な視点に立って取り組む必要があります。
- ④ 行政では担当者が2～3年で異動することが多く、誰を呼ぶかストーリーもなく呼びやすいような有名人を選び、結果同じ人が同じように全国を回ってどこも代わり映えないものとなりがちです。
- ⑤ 地方のホールであっても、新しい才能、演者を育成する場としての在り方を模索できるはずです。
- ⑥ ある程度期間を定めて専門家を配置し、一緒に文化会館（仮称）の運営や興行に携わる中で、関係職員や団体の育成を図っていくのも方法の一つでしょう。
- ⑦ 地域おこし協力隊などを活用し、市民、団体、関係者、また演者も含め、ステークホルダーの幅を広げていけるか。
- ⑧ 新しい施設では最新の舞台装置や音響、照明等になりますが、使いこなす人材がいなければ宝の持ち腐れです。舞台には立てないけれど、裏方では参加したいという人もいられるかもしれません。既存スタッフと新しい人材も取り込みながら、量・質ともに充実させていく必要があります。

- ⑨ 市内の各ホールでも、企画集団やオペレータースタッフとの関わり方もそれぞれ異なります。新しい文化会館（仮称）にとってどの形が望ましいか検討します。
- ⑩ 新しい施設は図書館や広場など、これまでの文化会館とは異なる機能を持ち、また交流の拠点となることを目指すことから、以下に想定する役割を果たすために必要な人材を配置します。また場合によっては一部の機能に関しては市民団体に委託するなど効果的な運営方法を検討します。

想定する機能

職能		役割
総括（館長）		業務の統括
総務	庶務・経理	庶務・経理業務
	施設管理	施設、敷地、舞台技術の管理に関する業務
事業	企画制作	自主事業の企画から実施までの業務
	広報	施設及び事業の広報業務
	交流	団体、学校、地域、利用者等との交流業務
	図書館	レファレンスサービス
	受付	受付、チケット販売、貸館などの窓口業務

※外部スタッフ（オペレータースタッフ）

4 今後の具体的な事業展開について

○各視点でのプロジェクト案

⇒（例1）新しい出会いの場プロジェクト

（例2）愛される施設プロジェクト

（例3）市民協働による新たな価値創造プロジェクト

- ① 高校生などが自分たちで企画運営するのであればそれを支援。
- ② 圧倒的な魅力のあるコンテンツを1つ育て、それを軸に。
- ③ ○○の聖地
- ④ 企画の持ち込みコンテスト